

ハビエル・エチェバ リアの生涯

ビエル・エチェバリア司教
(1932年マドリッド～2016
年ローマ)

2017/02/10

ハビエル・エチェバリア司教はオプ
ス・デイの2代目属人区長で、1994
年に福者アルバロ・デル・ポルティ
リヨの後継者でした。

1932年6月14日、マドリッドで生ま
れました。8人兄弟の末子でした。
サン・セバンティアン市のマリアニ

スト会の学校とマドリッドのマリスト会の学校を通いました。

1948年に学生寮でオプス・デイの若者を知り合った。当年の9月8日に日常生活の中に聖性を求める神の召し出しを感じ、オプス・デイに加わりました。

法学および教会法の博士号を取得しています。マドリッド大学で初めて、ローマで続けました。（1953年に教皇庁立聖トマス大学で教会法博士号、1955年に教皇庁立聖トマス大学で法学博士号）。

1955年8月7日、司祭に叙階されました。聖ホセマリア・エスクリバーの忠実な協力者として、1953年から聖ホセマリアの帰天する1975年まで秘書を務めました。

1975年、アルバロ・デル・ポルティーリョ神父が聖ホセマリアの後継者に選出されてから、事務局長に

任命され、1982年、オプス・デイが
属人区として設立されたことによ
り、属人区長総代理となりました。

1994年4月20日、オプス・デイの属
人区長として選出され、さらにヨハ
ネ・パウロ2世教皇により認証を受
けたエチェバリーア神父は、1995年
1月6日、聖ペトロ大聖堂で同教皇よ
り司教に叙階されました。

最初から、家族、若者、文化の分野
の福音宣教を優先しました。ロシ
ア、カザフスタン、南アフリカ、イ
ンドネシア、スリランカなど16ヶ国
のオプス・デイの活動の始まりを推
進しました。オプス・デイのメン
バーと協力者の使徒職を促すように
全世界を回りました。移民、病人、
見捨てられた人のための取り組みを
励ました。末期患者のための緩和ケ
アーの何ヶ所の施設に特別な注意を
払っていました。

カテケーシスの旅や司牧活動には、よく取り上げた課題は、十字架上のイエスへの愛、兄弟愛、他人を使える事、恵みと神のことばの重要性、家族生活、教皇との一致などでした。ちょうど、最後の手紙には、11月7日の教皇フランシスコの謁見を感謝して、教皇様とその意向のための祈りをいつものように願いました。

数多くの司牧的書簡を書き、「Memoria del beato Josemaría（福者ホセマリアの思い出）」、「Itinerarios de vida cristiana（キリスト者の信仰の歩み）」、「Para servir a la Iglesia（教会に仕えるために）」、「Getsemaní（ゲッセマネ）」、「Eucaristía y vida cristiana（ご聖体と信仰生活）」、「Vivir la Santa Misa（ミサ聖祭を生きる）」などの霊的著書をも書きました。

聖座の列聖省審議委員と最高裁判所に属しました。2001年、2005年と2012年のシノドス（通常総会）、アメリカ・シノドス（1997年）とヨーロッパ・シノドス（1999年）に参加しました。

2016年12月12日、ローマで呼吸不全により帰天しました。

.....

pdf | から自動的に生成されるドキュメント <https://opusdei.org/ja-jp/article/sheng-ya-10/> (2026/02/16)